

「西濃地域茶業調査とお茶をコンセプトとした学生によるカフェ実践」

はじめに

岐阜経済大学マイスター倶楽部では、メンバーの関心に基づいて複数のプロジェクトに分かれて研究や実践を展開している。なかでもカフェプロジェクトは、大垣市中心市街地の課題を分析するなかで交流の場づくりが必要と考え、2015 年から始まった取り組みである。本報告では、カフェプロジェクトが取り組んだ「西濃地域の茶に関する調査」と「お茶をコンセプトとしたカフェ実践」の内容を展開する。

テーマ設定の理由 ～大垣市中心市街地の課題から～

大垣市では、中心市街地の空洞化問題に対して、中心市街地活性化法に基づき活性化のための計画を策定している。2016 年現在では、「大垣市中心市街地活性化基本計画」第 2 期の期間中であり、いま大垣市の中心市街地は大きく変化する時期にある。

本計画では、活性化のための方針として「賑わいの創出」「まちなか居住の推進」「空き店舗の減少」という 3 本の柱があり、それぞれに数値目標を置いて取り組まれている。各方針に基づく主な事業としては次のようなものがある。賑わいを生むためのイベントとして「元気ハツラツ市」、居住者増加を狙った「南街区再開発」とマンション建設、空き店舗活用や新規出店を狙ったレンタルスペース「ちょいみせ」などの取り組みである。

「大垣市中心市街地活性化基本計画」第 2 期の目標数値

目標	指標	現況値 (H26)	目標値 (H32)
観光・交流拠点の整備や 商業機能の再生による (賑わいの創出)	歩行者・自転車通行量	12,189人	12,688人
都市基盤の推進による (まちなか居住の推進)	居住者数	8,330人	8,430人
中心市街地の商業再生 による(空き店舗の減少)	空き店舗数	36店舗	27店舗

出所：大垣市「大垣市中心市街地活性化基本計画（第 2 期）」2015（平成 27）年

これらは一定の成果を上げているが、課題も多い。例えば、イベント開催による来街客増加の成果はあったが、その成果を個店の売り上げ増加や空き店舗の減少につなげることができていない点、マンション建設に伴う定住人口増加を中心市街地での交流人口増加につなげる必要がある点、ちょいみせ等の効果による新規出店者の増加に結び付けるといった点である。

こうした中心市街地の課題から「交流人口増加のための仕掛けづくり」が必要と考え、まちなかで学生によるカフェを開催するプロジェクトに取り組んでいる。さらに、今回のテーマとして「お茶」を取り上げた理由は次の通りである。すなわち、カフェのイメージはコーヒーであるがそれだけではない差

別化が必要であると考えたこと、また大垣を中心とした西濃地域には地域資源としてのお茶の産地集積が一定程度あることである¹。加えて、中心市街地の問題を捉える際に「広域効果要件²」の視点から、地域の範囲を西濃地域という圏域まで広げて考えていくことが必要だと考えた。そこで今回「西濃地域茶業調査」と「お茶をコンセプトとした学生によるカフェ実践」という調査と実践の両面から取り組むことになった。

茶業調査概要

＜ヒアリング先・実施日・産地地図＞

調査産地	ヒアリング先	ヒアリング実施日
「おおがき茶」 (大垣市上石津町)	平塚香貴園	2016年9月14日 (水)
「美濃いび茶」 (池田町宮地地区)	宮地地区生産組合	2016年8月25日 (木)
「天空の古来茶」 (揖斐川町春日地区)	傳六茶園 (でんろくちやえん)	2016年10月26日 (水)
「不帰茶」 (垂井町不帰地区)	不帰茶生産組合	2016年8月25日 (木)

これらは、西濃地域の主要産地の市町村である。本調査では、それぞれ生産者へのヒアリングを通じて、まずは第一次的に茶葉生産現場の現状を把握する目的で実施した。

カフェ実践概要

日 時：2016年10月2日（日）10時～16時

場 所：大垣商店街ちよいみせキッチン（大垣市コミックタウンギャラリー³の一環で出店）

テーマ：「お茶をコンセプトにした」カフェ

内 容：カフェ営業

- ・「きき茶」体験（『聲の形』にちなみ“聴く”と“利く”をかけて）
- ・マーケティングとしてアンケート調査

主体：岐阜経済大学マイスター倶楽部カフェプロジェクト

¹ 岐阜県では、美濃地域を中心に「茶」の生産が盛んである。これらを「美濃茶」と言い、西美濃地域を中心とする「美濃いび茶」、美濃中央地域を中心とする「美濃白川茶」が二大銘柄として販売されている。とりわけ西美濃地域の主な産地は、大垣市（旧上石津町）、垂井町、関ヶ原町、揖斐川町（旧揖斐川町、春日村、久瀬村）、池田町などがある。このように西濃には、地域資源としての「茶」の集積が見られる。この地域資源を活かし、茶業・お茶文化を発展させていくことが、地域の発展にとっても重要であると考えている。

² 中心市街地活性化法による措置は、都市の中心市街地であって、3つの要件に該当するものについて講じられる。そのひとつが「広域効果要件」であり、すなわち「3.当該市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進することが、当該市街地の存在する市町村及びその周辺の地域の発展にとって有効かつ適切であると認められること」である。

³ 大垣市では2016年より「クールおおがき推進事業」を展開している。これは、アニメやマンガなど新たなコンテンツや大垣の歴史・文化を活用して、地域資源を掘り起こす取り組みである。「コミックタウンギャラリーおおがき 2016」は、2016年9月2日から1か月間、中心市街地の空き店舗を活用して、ギャラリーや既存施設に多彩な作品を展示するイベントであった。